

「さあ、わたしは来ました」 ヘブル 10：1－14

- I 神であるキリストが、人となりクリスマスに救い主として、この世に来られる必要があった理由→「律法には、後に来るすばらしいもの（イエス様の救い）の影（イエス様を指し示すもの）はあっても、その実物はないのですから、律法は、年ごとに絶えずささげられる同じいけにえによって神に近づいて来る人々を、完全にすることはできないのです。もしそれができたのであったら、礼拝する人々は、一度きよめられた者として、もはや罪を意識しなかったはずであり、したがって、ささげ物をすることは、やんだはずです。ところがかえって、これらのささげ物によって、罪が年ごとに思い出されるのです。雄牛とやぎの血は、罪を除くことができません」：1－4。※「御子イエスの血はすべての罪から私たちをきよめます」（Iヨハネ1：7）。感謝します！
- II クリスマスの目的。：5－7は、非常に貴重な御言葉！マタイ、ルカ、ヨハネの福音書からクリスマスの御言葉を私達は、心から喜び、読み味わえる。但し、キリストは、赤ちゃんとして、お生まれになったので、クリスマスの時のキリストの自発的な発言を福音書の中で、見つける事は出来ない。しかし、本日の箇所では、キリストご自身のクリスマスのについての発言を聞くことが出来る！大変貴重な箇所。※聖書は、色々な箇所を読む事によって、補い合って、神の深い真理を知り続けることが出来る。一箇所だけではなく、聖書全体を読むように心がけたい。キリストご自身のクリスマスに関する御言葉＝「ですから、キリストは、この世界に来て、こう言われるのです。『あなた（神ご自身）は、いけにえやささげ物を望まないで、わたし（御子なる神）のために、からだを造ってくださいました。あなたは全焼のいけにえと罪のためのいけにえとで満足されませんでした。そこでわたしは言いました。『さあ、わたしは来ました。聖書のある巻に、わたしについてしるされているとおり、神よ、あなたのみこころをおこなうために』」：5－7。主イエスが、この聖句で強調されている事は、主は、この世に目的を持って来られたという事。私達普通の人間は、生まれる時から、自分の意志で「私は、これをする為に生まれた」と断言する事はできない。親が、自分の子に夢を託すとう事ならよくある。生まれた後、人間は、自分が目指す夢、目的を探し求める。主イエスは、全く違う。主は、大切な目的を最初から持って来た（生まれた）と言っておられる。主は、地上に来ることを意識しておられた。「さあ、わたしは来ました。…神よ、あなたのみこころを行うために」と、その目的をはっきりと打ち出しておられる。「あなたのみこころ」とあるが、それは何？→神は、キリストが、私達の罪の為に十字架で身代わりに死ぬ救い主となる事を望まれた。主キリストは、私達の救いを成就する為に死ぬという目的で、人間のからだをお取りになられた。私達ならどうしただろうか？
- III 「さあ、わたしは来ました。…あなたのみこころを行うために」という主ご自身の言葉が示すもの。それは、それは、御子イエスが、御父の御心を行う事を喜びとされたという事！感謝します。本日の箇所と関係のある詩篇40：7，8に「今、私はここに来ております。巻物の書に私のことが書いてあります。わが神。私はみこころを行うことを喜びとします」とある。正に、主イエスは、クリスマスに、いやいやながら、この世に来られたのではなく、喜んで来られたのである。その事実をこの御言葉で知らされる時、本日からのアドベント、待降節を過ごす私達の心にも喜びが増し加えられる。「さあ、わたしは来ました。御父の御心を行う為に」。この御こころとは、「私達の救いの成就」。それ故に、主は、私達にも、今、こう語りかけておられる。「さあ、わたしは来ました。あなたの救い

の為に」！何という恵み！何という自発的な愛！御子イエスは、天の栄光の世界から降りて来て下さり、この地上に来られ、神の永遠の御子として持つておられた一切の特権を捨て、自ら人間となり、赤ちゃんにまでへりくだり、お生まれになった後も、貧しい生活を送り、生涯にわたって苦しみ抜かれた。しかもついには、私達の数えきれない罪の為に、十字架で苦しまれ、罪人、犯罪者、大悪人としての死を味わわれた。このような事を喜びとすることができたのだろうか？そう、確かにイエスはこれらのことを喜びとなさった。それは、私達の救いを成就するという御父のみこころを行うのが主の喜びだったから。そして、主は、私達を心から愛し、私達が永遠に滅びないで、永遠に救われる事を喜びとされたから！「この（御父の）みこころに従って、イエス・キリストのからだは、ただ一度だけささげられた（十字架に）ことにより、私たちは聖なるもの（自分の罪が完全に償われ聖められた）とされているのです。また、すべて（旧約時代の）祭司は毎日立って礼拝の務めをなし、同じいけにえ（動物の）くり返しささげますが、それらは決して罪を除き去ることができません。しかし、キリストは、（私達の）罪のために一つの永遠のいけにえをささげて（十字架で）後、神の右の座に着き、それからは、その敵（悪魔、罪、死）がご自分の足台となるのを待っておられるのです。※アドベント（待降節）とは「到来」という意味。キリストの初臨と再臨の両方に使われる。私達の救いの為に人となられた主の初臨（クリスマス）を待ち望む待降の時と同時にすべての敵を足台とされる再臨の主を待望する時。

IV 主の恵みを受け続けている私達の神への応答

父、子、聖霊なる三位一体の神の愛、恵みへの心からの感謝。「さあ、わたしは来ました…神よ、あなたのみこころを行うために」と言われ、自発的にクリスマスに来て、十字架で死に、よみがえり、私達の救いを成就して下さった主に心から感謝し、私達も、自分の思いではなく、神の御心を求め、神の御心を喜んで行っていく事が出来るように祈りつつ歩みたい。